

安全データシート (SDS)

作成 1997年6月27日
最終改訂 2024年4月16日

1.【化学物質等及び会社情報】

製品

製品の名称 アルタン野菜・果物洗い

供給者情報

会社名

アルタン株式会社

住所

東京都大田区東糀谷3-11-10

マーケティング室 開発企画課

電話番号

03-3743-5705

FAX番号

03-3743-5706

緊急連絡先

同上

2.【危険有害性の要約】

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体

区分3

健康に対する有害性

生殖毒性

区分1A

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

区分2(肝臓)

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、

上記以外の項目は、現時点で「分類できない」又は「区分に該当しない」である。

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

長期にわたる又は反復ばく露による肝臓の障害のおそれ

注意書き 【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること/アースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。

火災を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

ミスト/蒸気を吸入しないこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【救急処置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

皮膚(又は毛髪)に付着した場合 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

ばく露またはその懸念がある場合

医師に診断/手当を受けること。

気分が悪いときは、医師の連絡/診断/手当を受けること。

【保管】

換気の良い場所/涼しいところで保管すること。容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

人の健康に対する有害な影響

吸入した場合、高濃度の蒸気を吸入した場合や長時間曝露された場合は、その程度によって頭痛、めまい、嘔吐や意識喪失などを起こすおそれがある。

皮膚に対して、長期または繰り返しの接触により脱脂される。

眼に対して刺激性がある。

飲み込んだ場合の有害性はきわめて低い。

(成分は全て食品、食品添加物公定書記載の試験に合格した原料のみで構成されています。)

環境への影響

データなし

物理的及び化学的危険性

本製品は引火しやすい液体である。

3.【組成・成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物
成分及び含有量

化学名	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号	PRTR法
シヨ糖脂肪酸エステル	非公開	非公開	非公開	非該当
プロピレングリコール	非公開	57-55-6	2-234	非該当
エタノール	0.1~10	64-17-5	2-202	非該当
クエン酸三ナトリウム	非公開	68-04-2	2-1323	非該当
クエン酸	非公開	77-92-9	2-1318	非該当
水	非公開	7732-18-5	-	非該当

内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質：環境省「環境ホルモン戦略計画SPEED'98」(2000年11月版)で示された物質(65種類)を使用しない。

成分は全て食品、食品添加物公定書記載の試験に合格した原料のみで構成されています。

4.【応急処置】

目に入った場合	直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の処置を受ける。
皮膚に付着した場合	流水でよく洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、すみやかに脱ぎ皮膚を流水でよく洗い流す。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の処置を受ける。
吸入した場合	蒸気、ミストを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所に移動して安静にする。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	直ちに水で口の中を洗浄し、コップ1~2杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のないときは口から何も与えない。ただし、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。
その他	使用中、目に異状を感じたり、せき込んだり、気分が悪くなったときは、直ちに使用をやめてその場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への受診時には製品または安全データシートを持参する。

5.【火災時の措置】

消火剤	水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	本製品は引火しやすい液体である。
消火方法	周辺火災の場合はすみやかに安全な場所に移す。 移動ができない場合は、風上より容器周辺に散水して冷却する。 着火した場合、初期の火災には水、粉末、二酸化炭素などを用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。 容器が高温で破裂する恐れがあるので、消火活動には十分な距離をとること。 火災発生場所付近には関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護	消火作業では保護具を着用する。

6.【漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際には、必ず静電気対策が施された保護具(保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴、保護マスク)を着用し、風下では作業をおこなわない。

環境に対する注意事項

雨水溝、河川、海上などに多量に排出されないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

風下の人を避難させる。

漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

付近の着火源、高温体および可燃物などをすみやかに取り除く。

衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

少量の場合は、漏洩した場所を多量の水で洗い流す。

多量の場合は、土砂などで流出防止を図った後、乾燥砂、土、おがくず、ウエスなどに吸着させて密閉できる空容器に回収する。回収した跡、または回収できないものは、多量の水で十分に洗い流す。

7.【取り扱い及び保管上の注意】

取扱い 作業や製品容器の取扱い時は必ず適切な保護具(保護眼鏡、保護手袋、保護靴、保護衣、保護マスク等)を着用する。

荒れ性の方や長時間作業する場合、濃厚液で使用する場合はゴム手袋を着用する。

周辺での火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。

使用時は換気を良くする。

キャップを開けるときに液が飛び出すことがある。また、容器を移動するときはキャップをしっかりと閉める。緩んでいると液が跳ねて眼や皮膚に付くことがある。

飛散した液やミストを吸い込んだり、眼に入らないようにする。

用途以外には使用しない。

他の薬剤、洗浄剤などとは絶対にまぜない。

他の容器に移し替える場合は、弊社指定の専用容器を使用する。誤飲等事故のおそれがあるので、飲料用の容器を含む他の容器に移し替えたり小分けしない。

野菜、果物を洗うときは、5分以上つけたままにしない。

野菜、果物は30秒以上流水ですすぐ。ため水の場合は水を替えて2回以上すすぐ。

すすめた液を長期間保存すると、変質することがあるので、使用の都度すすめる。

使用後はよく手を洗い、必要ならばハンドクリームなどで肌の手入れをする。

倒したり、こぼしたりしないように注意する。

保管 使い終わった容器は、適切に処理する。

火気、熱源から遠ざけて保管する。

危険物として定められた場所に保管する。

直射日光、40℃以上、多湿および凍結のおそれのある場所を避けて密閉して保管する。

子供の手の届かないところに保管する。

8.【暴露防止及び保護措置】

管理濃度

設定なし

許容濃度

エタノール100%の場合

日本産衛学会

設定なし(2014年版)

ACGIH

STEL

1,000ppm(2009年版)

設備対策

火気、熱源のない場所で使用する。

ミスト、蒸気が滞留しないように局所排気装置または全体排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具・呼吸器の保護

保護マスク

目の保護

保護メガネ

皮膚・身体の保護

ゴム手袋・ゴム長靴・保護衣

9.【物理的及び化学的性質】

外観	淡黄色透明液体
臭気	特有の芳香
沸点	データなし
融点	0℃以下
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重	1.11(25℃)
pH	6.5(25℃)

溶解度	水溶性	
引火点	55.2°C	
可燃性	データなし	
燃焼または爆発範囲	なし	
水分係数	データなし	
自然発火温度	データなし	
分解温度	データなし	
粒子特性	データなし	
動粘性率	データなし	
その他	ヒ素	0.05mg/L以下
	重金属(Pbとして)	1.0mg/L以下
	メタノール	1mg/g以下
	全リン酸塩	検出せず
	蛍光増白剤	検出せず

10.【安定性及び反応性】

反応性	通常の取扱い条件においては危険な反応を起こすおそれはない。
化学的安定性	通常の取扱い条件(屋内、常温)においては安定である。 35°C以上の条件下にて酸価が上昇する。また、直射日光下にて退色する。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	火気、熱源の付近、直射日光、40°C以上、多湿、凍結条件下、開放状態
混触危険物質	特になし
危険有害な分解生成物	データなし

11.【有害性情報】

急性毒性	経口	使用原料の加算式判定の結果より、区分に該当しないとした。
	経皮	データ不足のため分類できない。
	吸入(ガス)	区分に該当しない(分類対象外)
	吸入(蒸気)	データ不足のため分類できない。
	吸入(粉じん・ミスト)	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	データ不足のため分類できない。	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	データ不足のため分類できない。	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。	
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。	
発がん性	データ不足のため分類できない。 ※エタノールの発がん性はACGIHでA3(ACGIH(7th, 2012))、 IARC(2010)では、アルコール飲料に含まれるエタノールとして 区分1Aと分類される。これは飲料としてエタノールを摂取した 場合の有害性を示すことから、IARCの情報を本製品のばく露有害性の 判断に使用することは不適と考え、現時点では データ不足のため分類できないと判断した。	
生殖毒性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分1Aとした。	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分2(肝臓)とした。	
その他の情報	成分は全て食品、食品添加物公定書記載の試験に合格した 原料のみで構成されています。	

12.【環境影響情報】

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	データ不足のため分類できない。
水生環境有害性 長期(慢性)	データ不足のため分類できない。

残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中への移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
その他の有害情報	データなし

13.【廃棄上の注意】

残余廃棄物	下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。 廃棄処理をするときは適切な保護具を着用する。
汚染容器、包装	関連法規ならびに地方自治体の基準に従い適正に処理する。必要に応じて、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。

14.【輸送上の注意】

国際規制	
国連番号	1993(引火性液体類)
品名(国連輸送名)	その他の引火性液体(他の危険性を有しないもの)
国連分類	クラス3(引火性液体)
容器等級	Ⅲ
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78及びIBCコード	ばら積み輸送されない製品のため対象外。
HSコード	3402.20
国内規制	次の輸送に関する国内法規に該当するので、定められている輸送方法に従う。 消防法 危険物船舶運送及び貯蔵規則
輸送の特定の安全対策及び条件	輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどがないことを確認する。 荷役作業は丁寧にいき、容器を破損しないように取り扱う。 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態での輸送は避ける。 水濡れを避ける。

15.【適用法令】

毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質管理促進法(P R T R法)	非該当
労働安全衛生法	施行令 別表第9 名称等を通知すべき有害物 61(エタノール) リスクアセスメント対象物質(エタノール)
消防法	指定可燃物 引火性液体類
危険物船舶運送及び貯蔵規則	引火性液体類
海洋汚染防止法	ばら積み輸送されない製品のため対象外。
水質汚濁防止法/水素イオン濃度	非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物

16.【その他の情報】

記載内容の問い合わせ先	アルタン株式会社
住所	東京都大田区東糞谷3-11-10
担当部門	マーケティング室
電話番号	03-3743-5705
FAX番号	03-3743-5706

改訂履歴

作成	1997年 6月 27日
改訂	2006年 3月 24日
改訂	2016年 2月 19日
改訂	2022年 4月 7日
改訂	2022年 6月 2日

最終改訂

2024年 4月 16日

参考文献

製品安全データシートの作成指針(改訂版)、日本化学工業協会(2001)
GHS対応ガイドライン、(財)日本化学工業協会(2012)
JIS Z 7252:2009 GHSに基づく化学物質等の分類方法、日本規格協会
JIS Z 7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、
作業場内の表示及び安全データシート(SDS)、日本規格協会
労働安全衛生関係法令集、労務行政研究所
16313の化学商品、化学工業日報社
化学品安全管理データブック、化学工業日報社
公害防止の技術と法規(水質編)、産業公害防止協会
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善促進の進め方、日本規格協会
GHS分類結果データベース、製品評価技術基盤機構HP
GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報、厚生労働省職場のあんぜんサイトHP

注意

- ・ この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・ 記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・ 注意事項は通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たな用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・ すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
- ・ ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。